

<はじめに>

多くの人々を震撼とさせた相模原事件の裁判がはじまった。事件の背景にある優生思想は人の価値を生産性や効率性で判断する競争社会にある。その中で障がい者や高齢者は非効率として排除される。

この経済最優先、効率重視の価値観に踏み込まなければ、人々の間にある差別意識は変わらないのではないか。誰も排除しない地域共生社会の実現には、資本主義社会という文明そのものを考え続ける姿勢が必要だろうと思う。

事件をきっかけに、精神保健福祉法の改正案が今国会に提出されている。措置入院となった患者を永続的に監視することにつながりかねない内容を含んでいる。より監視しやすい社会が作られようとしている。

もともと人類は、多様性を尊重する考えを持っていたが、現代社会では失われつつある。障がいを含め多様性を認め合える地域づくりにこれからも取り組んでいきたいと思う。

人権擁護委員会委員長 坂林哲雄

2016.10.15-16



障害者虐待防止・権利擁護研修を開催

放課後等デイサービスの管理者・児童発達支援管理責任者などリーダー層を対象に、東京・池袋本部にて開催。両日とも100名が参加。

今年度の虐待認定を受け、その教訓の共有と協同労働の放課後等デイのあり方を皆で考え、二度と虐待を発生させないために研修会を開催。

2日間で7つのテーマについて講義があり、グループディスカッションやグループワークを交えながら学び合いました。

冒頭、坂林人権擁護委員会委員長から経緯説明、風通しのよい職場づくりや相談できる体制作りをともに取り組むことを呼びかけがありました。

「障害のある仲間と共に育つ職員、職場、地域」と題し、立命館大学・山本耕平教授が講演。

「最初から素晴らしい実践者なんていない。人は実践の中で、ゆらぎながら成長していくもの。ゆらいでも大丈夫、しんどさを受け止められ、皆に包み込まれている、育てて貰っていると実感できる職場を作って欲しい。」

ゆうやけ子どもクラブの村岡真治代表は、「子どもへの実践を土台に、親とつながることや親同士をつなぐことも大切。放課後等デイが出来て終わりではなく、よりよい制度や実践をつくる新しい

運動に広げていかなければ」と、当事者や家族の思いや願いについて事例を基に報告がありました。

2日目は、白梅学園大学・堀江まゆみ教授・NPO法人おると宮村和秀理事が講演。その後、放課後等デイサービスガイドラインの学習会、風通しのよい職場づくりとはと題してグループディスカッションを行いました。

堀江まゆみ教授は、怒りは大事な感情。怒らなくなるのではなく、アンガー（怒り）マネジメントなどで怒りと上手に付き合うことが大切。怒りをうまく扱えないと、人間関係を壊し、仕事に支障を来したり、体にも悪い影響をもたらす。

支援者ひとり一人の怒り、いらいらや、職場で「どうせ言ってもしょうがない」などの間違っって学び取った無力感に向き合うことが大切だとお話がありました。



宮村和秀さんからは、思い、願いは大事だが、それだけでは目指す世界は実現できない。ワーカーズコープの強みは、大勢の仲間がいること。今までの行動を見つめ直し、目的を決め、学び支え励まし伴走する他者が必要。各事業所で、自分たちの言葉で理念を表現して欲しい。理念とは、今は無理でもたどり着きたい世界でもあり、迷った時に戻れる原点。何のための事業なのかを常に問うことが大切だと。

今、家庭環境が劣化している。こうした状況は発達に影響を与える。この辛い状況を支えるのが私たちの事業だ。

死にたいくらいの困難に出会っている子どもたちや保護者に、「生きていてもいいんだよ、大丈夫、あなたがいるから世界がこんなに輝いている。」と、伝えて欲しいとお話がありました。

ストレスチェックを実施



放デイの職員のメンタルヘルス不調を防いで、いきいきとした職場環境を実現するために、東京都内8事業所でストレスチェックを実施しました。(8事業所/実施率88.9%)

「仕事のストレス要因」「心身のストレス反応」「周囲のサポート」の3領域でチェックし、高ストレスと評価された職員から申し入れがあった場合は、医師による面接指導を行い、必要があると認められた場合は、就業上の措置を講じます。

東京都内の事業所では、今後も年1回のストレスチェックを実施していく予定です。

働く人のメンタルヘルス・ポータルサイト
「こころの耳」

<http://kokoro.mhiw.go.jp/etc/kaiseianeihou.html>

各地域での活動レポート



●東京北部事業本部 放課後等デイ交流会

放課後等デイサービスの交流会を開催しました。4事業所の放デイから、子ども11名、保護者9名を含む61名が参加しました。

「みんなで学び交流する場に」と呼びかけ、それぞれの事業所が活動を報告。こどもたちは、水族館へ♪

大正大学の玉井邦夫教授が「障がい者の特性とは～地域で共に生きていく～」というテーマで講演。年齢と共にその子の歩みで情緒的に成長していくこと、無知により差別が生まれること、地域での居場所づくりの大切さなどをお話しされました。

保護者同士の意見交換会では、高校卒業後の子どもたちに合った働く場・居場所をどうするかを話し合いました。主催者から、「私たちも卒後のことを一緒に考えていきたい。障がいのあるこどもたちが、当たり前に分らなく生きられる一歩になれば」と。

保護者からは、バザーの売り上げを資金にしようという提案などもありました。



←放デイ交流会の様子

壁には、事業所の活動紹介が掲示されていました。

●放課後等デイサービスポジティブ第2回虐待防止委員会を開催



事業所の運営や放課後等デイサービスの保護者評価表の集計結果の分析、子どもに対する支援方法などについて、第三者委員も交え話し合いを行いました。

保護者からの評価結果を踏まえ、次年度の運営について工夫・改善していくことを確認し、出来る事から取り組んでいくことを確認しました。

「人権擁護委員会」電話 03-6907-8044 FAX03-6907-8052

東京都豊島区東池袋 1-44-3 池袋 I SP タマビル7F